

伊賀市地域おこし協力隊活動報告

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化が進む地方に、地域外の人材を地域おこし協力隊として積極的に受け入れ、地域ブランドの開発などの地域おこし支援活動などを行いながら、地域への定住・定着を図る取り組みです。伊賀市では現在、島ヶ原地域で西村隊員が、阿波地域で菅生隊員が活動しています。今回は、二人のこれまでの活動成果などを報告します。

【問い合わせ】

- 島ヶ原支所振興課 ☎ 59-2053 FAX 59-3196
- 大山田支所振興課 ☎ 47-1150 FAX 46-0135
- 地域づくり推進課 ☎ 22-9680 FAX 22-9694

島ヶ原 西村 英里奈 隊員

伊賀市に移住した率直な感想は「移住してきて良かった」です。
島ヶ原では人や環境にも恵まれ、野菜作りを通して、自然と共存することの大切さや、モノ作りの楽しさを感じながら活動しています。



こんな活動を行いました！

活動1 島ヶ原産のニンジンでジュース作り

ミネラルとビタミンが豊富な島ヶ原産のニンジンが無農薬で栽培し、素材の栄養素をまるごととれるジュースで「素材と製法にこだわった心と体に優しい健康ジュース」を作り、商品化を進めています。

ニンジン本来の甘みを感じられます。



活動2 地域おこしに役立つ研修への参加

赤目自然農塾や市の主催する観光まちづくり企画塾で、野菜や米の育て方や、企画・商品作り、どうやって売っていくかなどを学びました。協力隊として、技術を学んだり商品を作るだけでなく、その先の商品の売り方や発信の方法も勉強し活動に生かしています。

動画での情報発信についても学びました。



島ヶ原地域まちづくり協議会

会長 松永 亨二さん



西村さんは、地域の野菜作りを学びつつ、島ヶ原産のニンジンを使ったジュース作りなど、地道に粘り強い活動をしています。1月には主原料のニンジン収穫し、ジュースを試作したところ、大変甘くて飲みやすいジュースができました。
まだまだ地域の課題が残っていますので、これからも島ヶ原地域で活動してほしいと思います。

阿波 菅生 文佳 隊員



サルの見回りに使うアンテナ

阿波地域に着任してから、これまでに獣害対策について取り組んできたほか、アマゴの発眼卵の放流など、さまざまな活動を行ってきました。どの活動も、一人では行えないため、地域の人との連携を大切にしながら活動しています。

活動1 サルの見回り

地域の人と一緒にサルの見回りをしています。

サルに着けている発信機をアンテナで受信して探します。サル の位置を把握し追いつくことで、農作物の被害を未然に防ぐように頑張っています。

アンテナを使うとサルがいる方向と大まかな場所が分かります。



活動2 シカの解体

解体処理施設でシカの解体研修を受けています。

解体は一人で行えるようになり、現在は作業時間の短縮をめざしています。

捕獲は地域の人に手伝ってもらっているため、これからは一人でできるように頑張っていきます。

▼シカを解体する様子



阿波地域住民自治協議会

会長 村上 靖尚さん

面談時は小柄で繊細な印象でしたが、さすが「狩ガール」です。今では、猟師や食肉業者と連携して狩猟やジビエ肉の生産などをはじめ、試験研究機関との連携も行い、活動域を広げています。

地域おこしに3年間は短すぎますので、任務終了後もこの地で活動してほしいと思います。



これまでを振り返って

西村隊員 令和元年11月着任



一年はあっという間で、いろいろな出会いがあり、多くの人に支えてもらった一年でした。

自分の感性を大事にしながら「感謝」と「楽しむこと」を忘れず、地域課題の解決や地域おこしができるように、取り組んでいきたいです。

これからもさまざまな情報を集め、もっと大胆にチャレンジしていきたいと思っています。

菅生隊員 令和2年7月着任



着任して7カ月が経ち、地域や活動にも慣れてきて、わなの見回りや捕獲、研修といった1日の流れも定着してきました。

また、阿波地域はもちろん、他の地域の人とも繋がりができ、旬の野菜や米、鹿肉、猪肉をもらうこともあります。

これからもおいしい野菜や米がとれるよう、獣害を減らしていきたいと思っています。

地域おこし協力隊の活動はフェイスブックをチェック！



日々の活動を紹介しています。



◀伊賀市地域おこし協力隊フェイスブックページ